



TK WORKS

Beyond Steel

株主通信

第116期 報告書

2012.4.1 >>> 2013.3.31

東洋鋼鈹株式会社

鉄から広がる無限大“∞”

当社の製品は私たちのくらしの身近なところで活躍しています。

“鉄”とともに歩み続けてきた東洋鋼鈑はこれまでさまざまな製品を世に送り出してきました。今日ではその伝統で培った、圧延、表面処理、ラミネートなどの技術をもとに“鉄”から“非鉄”や“樹脂”へと自らのフィールドを拡大しています。



日本で民間初のぶりきメーカー

その他材料

- 梱包資材用帯鋼
- 機械器具
- 耐食・耐摩超合金



バルブ自動開閉器(ベストルク)

缶用材料

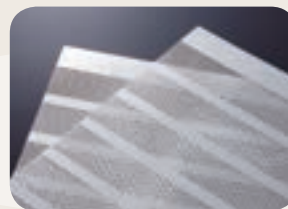
- ラミネート鋼板
- ぶりき
- ティンフリースチール



食缶・インキ缶(ぶりき)

電気・電子部品材料 自動車・機械部品材料

- ニッケルめっき鋼板
- 電気亜鉛めっき鋼板
- 冷延鋼板



ハイブリッドカー用電池部品(角孔芯材)

機能材料

- 磁気ディスク用アルミ基板
- 光学用機能フィルム



液晶テレビ、スマートフォン向けフィルム
(光学用機能フィルム)

建築・家電用材料

- 樹脂化粧鋼板
- 植毛鋼板
- 銀鏡めっき金属板



太陽光採光システム「どこでも光窓」
(銀鏡めっき金属板)

新ブランド「TK WORKS」の展開



東洋鋼鋳グループは、未来のありたい姿のビジョンを再構築し、基盤強化を図るために、本年4月1日から新ブランド「TK WORKS」を展開してまいります。このブランドシンボルによって東洋鋼鋳グループの新たな姿勢を社会やお客様へ示すとともに、当社の“独自の強み”や“らしさ”を表現していきます。また、社会や市場とのコミュニケーションの手段としても、ブランドシンボルを活用し、社会へ永続的に有益な価値を提供し続ける企業集団を目指してまいります。

ブランドシンボル(コーポレートロゴ)



■ブランドネーム

東洋鋼鋳グループ全体を表すブランドネームとして新たに“TK WORKS”を使用することにいたしました。“TK”は東洋(TOYO)と鋼鋳(KOHAN)の頭文字です。またWORKSには、製品、事業、仕事、技術の意味に加えて、従業員や会社を主語とした“～を目指し努力する、～を機能させる”という意味を込めています。

■文字デザイン

メタリックグレー色と骨太な文字は、スチールを原点とした歴史や伝統、これまで培ってきた確かな信頼、絶え間ない力強いイノベーションを表現しています。また、全体のわずかな右への傾斜は前向きな歩みを止めない東洋鋼鋳グループの真摯な姿勢を表しています。

■ブランドシンボルマーク

右上を目指す矢印マークは未来を指し示しています。未来に向けて新しい価値の創造を目指し、ありたい未来に向かって強い意志で一歩一歩、進みゆく東洋鋼鋳グループの姿勢を表現しているとともに、その先に広がりうる新しい世界もイメージしています。

円弧の部分は、「当社製品のロールから発想し、未来の豊かな社会に貢献できる商品を絶えず創造できる企業体でありたい」のメッセージが込められています。

■ブランドカラー(コーポレートカラー)

右上を目指す矢印マークの色がブランドカラーです。オレンジ色は、前向きにチャレンジし続ける東洋鋼鋳グループの情熱と活力、社会の暮らしの豊かさを力強く前進させていく意志を含めております。

ブランドステートメント(スローガン)

Beyond Steel

ブランドが向かうビジョンとありたい姿をOneフレーズで表現する新たなブランドステートメントを設定しました。

“スチール”にこだわり、“スチール”と共に歩み続けてきた企業姿勢を表現しました。また、“Beyond”によって“Steel”をコアとしながら、そこで培った技術を磨き、創造力を原動力として、新たな事業分野や市場へと大きく飛躍していく姿を表しています。

■ビジョン

当社はぶりき製造で誕生した会社ですが、その技術を発展させ非鉄、樹脂等を精密加工することにより、世界の鉄鋼業で類を見ないビジネスモデルの会社を目指します。

ごあいさつ

株主の皆さまには平素より格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第116期報告書をお届けするにあたり、当社グループの現状と今後の動向をご説明いたします。

代表取締役社長

田中厚夫

TK WORKS Beginning 東洋鋼鈹は、新たな歴史への第一歩を踏み出しました

Q 当期の経営成績について
ご解説ください。

A 「STEP UP 100」最終年度は
残念ながら減収減益となりました。

当期は、2010年度から取り組んできた中期経営計画「STEP UP 100」の最終年度でしたが、残念ながら減収減益となってしまいました。主力の鋼板関連事業では、製品価格の下落や飲料缶向け需要の減少などによって減収となり、さらに在庫の評価損によって営業利益が大きく落ち込む結果となりました。

市況低迷などの影響から収益目標に到達できなかったことは誠に遺憾であります。 「STEP UP 100」では非常に多くの成果が得られました。新規事業として育成してきた光学用機能フィルムは、液晶テレビ、タブレットやスマートフォンなど幅広い成長市場で利用されるようになり、売り上げは順調に拡大しています。昨年4月にはトルコで冷延鋼板・表面処理

鋼板などの製造販売の可能性を検討する合併会社を設立するなど、本格的なグローバル展開への布石も打てました。後ほどご説明する新中期経営計画につながる、非常に有意義な3年間であったと考えています。

Q 新ブランド「TK WORKS」について
ご紹介ください。

A 創業80周年を機にブランドを一新し、
今後のグローバル展開に備えます。

おかげさまで当社は来年4月、創業80周年を迎えます。これを機に当社グループは、新ブランド「TK WORKS」を導入することとしました（詳細はP.2に）。鉄を原点とした強さをベースに、未来へ向けて新たな価値を創造していくことをイメージしており、このブランドを通じて当社グループの新たな姿勢を示すとともに、我々独自の強みや「らしさ」を表現していきます。スローガンである「Beyond Steel」には、鉄にこだわり、

鉄とともに歩み続けた当社グループが、これからも鉄をコアとしながらも、さらにその先にある新事業や新技術、新市場へと飛躍していきたいとの思いを込めました。

Q 新中期経営計画について ご解説ください。

A 鋼板関連事業の海外展開や 新規事業の育成など、10年先を 見据えた成長戦略を展開します。

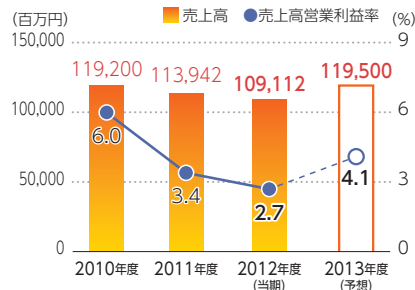
新ブランド導入と同時にスタートした中期経営計画が「TK WORKS Beginning」です。計画の詳細についてはP.6をご参照いただきたいのですが、2021年に売上高1,600億円、経常利益150億円を達成するという長期ビジョンに基づき、最初の3年間は主として機能材料関連事業でしっかりと稼ぎつつ、次の3年間に向けて、鋼板関連事業の海外展開、新規事業に積極的に投資していく方針です。この3年間で収益規模が大きく膨らむということにはなりません、その後の飛躍に向けた種まきの期間とご理解いただければと思います。

鋼板関連事業では、海外生産が最大のテーマになります。現在は山口県の下松事業所でほぼすべての製品を生産して

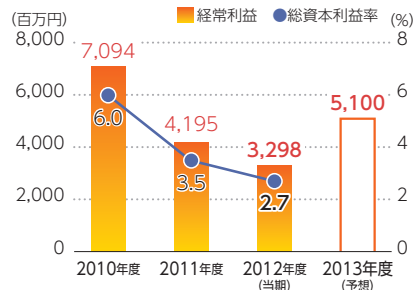
おります。海外生産を大幅に増やさなければグローバル競争に勝ち抜けないことは明白であり、このため昨年、トルコのトスサル社との合併会社を設立し、現地での冷延鋼板などの生産を目指して検討を進めているところです。ほかにも北米や南米、アフリカなどにも生産拠点を設けたいと考えており、鋼板関連事業では、3年がかりでグローバル生産体制を整備していきます。下松事業所はマザー工場として、高級品の生産や海外工場のサポートなどの役割を果たすことになります。

一方、機能材料関連事業では安定した成長を期待しています。HDD(ハードディスクドライブ)の基幹部品である磁気ディスク事業では、これまで厳しい価格競争に悩まされてきましたが、顧客との戦略的アライアンスを構築することにより安定した収益を目指します。また、前中期経営計画で育成してきた光学用機能フィルムが事業として安定した収益を確保するための基盤整備を行います。このほか、新規事業としては引き続きDNAチップの事業化などに取り組んでいきます。収益化には今しばらく時間を要する見込みですが、国内外の医療機関や大学などとも連携しながら、新たな市場に積極的にチャレンジしています。

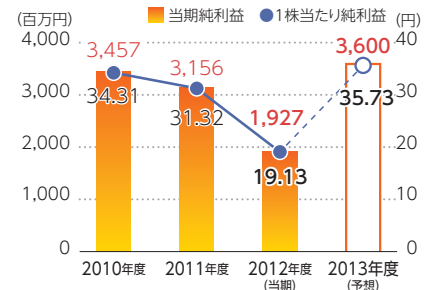
連結売上高／売上高営業利益率



連結経常利益／総資本利益率



連結当期純利益／1株当たり純利益





Q 来期の事業計画についてお聞かせください。

A トルコにおける鋼板事業の早期立ち上げ、磁気ディスク生産能力の増強など、“攻め”の施策が目白押しです。

TK WORKS Beginning 初年度の最大のテーマは、トルコにおける鋼板事業の早期具現化です。現在、市場調査などの結果を詳細に分析し、投資内容などを最終的に詰めている段階です。今秋にも最終判断したいと考えています。鋼板関連事業は飲料缶の市場縮小などで厳しい環境が続きますので、海外生産の準備に励む一方、既存事業のさらなる生産性の向上と高付加価値品の販売強化にも力を入れ、しっかりと収益を確保していきたいと考えています。

一方、機能材料関連事業では、今後も需要の拡大が見込まれる光学用機能フィルムの生産ラインを増強します。現在は液晶テレビ、タブレットやスマートフォンなど様々な用途に

向けた製品を生産していますが、設備を増強することにより、生産性を向上させてまいります。

来期の連結業績については、鋼板関連事業、機能材料関連事業ともに利益率が大幅に改善すると期待しており、増収増益を予想しています。DNAチップなど新規事業の育成にも引き続き注力していきますが、業績への貢献はまだ先のことになります。

Q 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

A 東洋鋼鈹のグローバル化に向け、人材育成に全精力を注ぎます。

当期の配当金につきましては、前年同期と同額の1株当たり中間配当4円、期末配当4円の計8円とさせていただきます。

今回は新ブランドと新中期経営計画を中心にご紹介させていただきました。社長に就任して以来、なかなか将来についての明確なビジョンをお示しできなかったのですが、今回でようやく、東洋鋼鈹グループの将来像がしっかり描けたと自負しております。しかしながら、ブランドや計画はいわば企業にとっての“外枠”にすぎません。本当に大切なのは、“内面”である“人”を育てることです。これまでの東洋鋼鈹は良い意味でも悪い意味でも「内向きで愚直な会社」でした。この伝統を打ち破り、スピード感をもってグローバル競争に挑める人材を育成することこそが、これからの私の最大の責務であると認識しております。

株主をはじめステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

新中期経営計画

TK WORKS Beginning

当社グループは経営理念、行動指針、ビジョンの実現を通して、有益な存在であり続けることをめざしています。2013年度から2015年度までの3ヶ年のグループ中期経営計画「TK WORKS Beginning」を策定いたしました。

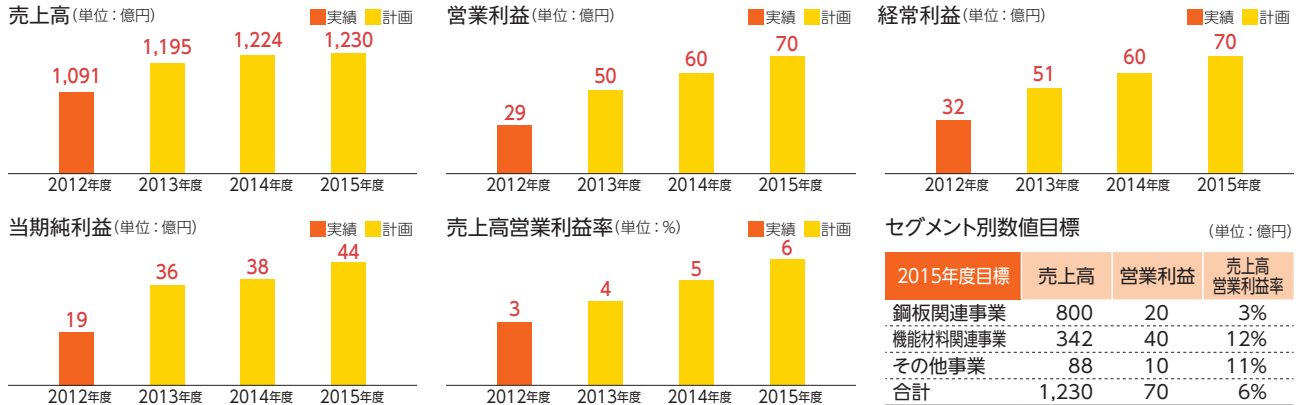
TK WORKS Beginning 骨子

■ 鋼板関連事業の収益向上
→ 海外拠点へ資源再配分

■ 機能材料関連事業の成長
→ 顧客との戦略的アライアンス

■ 新規事業の苗床整備
→ 次の中期計画で収穫開始

3ヶ年損益目標(連結)



事業戦略

既存事業の
基盤強化

グローバル市場への
積極的参入

新規事業の
創出

鋼板関連事業

- 生産プロセスの改革による更なる原価率の低減
- マーケティング活動を強化し、海外市場を積極的に開拓
- 技術力を活かし、新用途開発を積極的に行う

各セグメント別の戦略

機能材料関連事業

磁気ディスク事業

- 省プロセス化技術開発による生産量拡大と原価率低減
- 顧客との戦略的アライアンス構築による市場シェア拡大

フィルム事業

- ディスプレイ向け光学フィルム事業の拡大
- フィルム高付加価値化による事業領域拡大

その他事業

機械事業

- 新エネルギー関連分野への新規展開
- エンジニアリング事業の立上げ

● **売上高** 109,112百万円
(前期比 4.2% 減)

● **営業利益** 2,966百万円
(前期比 24.5% 減)

● **経常利益** 3,298百万円
(前期比 21.4% 減)

● **当期純利益** 1,927百万円
(前期比 38.9% 減)

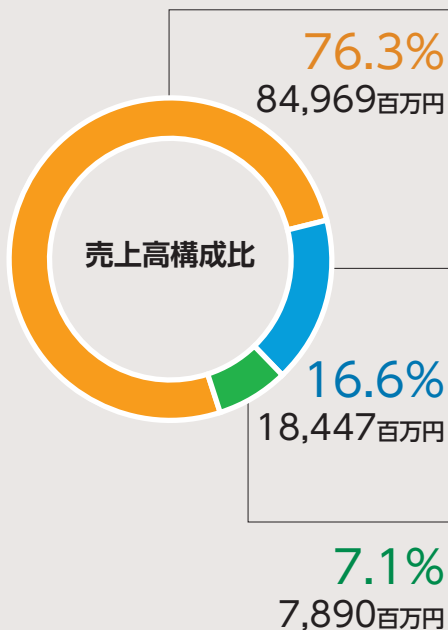
POINT ① 鋼板関連事業では市況低迷や販売数量減、在庫評価損により減収減益。

POINT ② 機能材料関連事業では、売上増となったものの、製造原価の上昇や価格低下により減益。

POINT ③ その他事業では、売上減や価格低下により減収減益。

セグメント情報

SEGMENT INFORMATION



なお、各事業の売上高は事業間の取引による金額を含んでおります。

鋼板関連事業



事業内容

缶用材料、電気・電子部品、自動車・産業機械部品、建築・家電向け材料の製造および販売

事業の概況

- 缶用材料は、主に飲料缶材向けで減少。
- 電気・電子部品向けは、ハイブリッド車用途が好調。
- 自動車・産業機械部品向けは、ベアリングシール材の需要が低迷。
- 建築・家電向けは、ユニットバス内装材や建築外装材が堅調。

機能材料関連事業



事業内容

磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルムの製造および販売

事業の概況

- 磁気ディスク用アルミ基板は、高密度化対応により製造原価が上昇し減益。
- 光学用機能フィルムは、市場で着実に浸透。

その他事業



事業内容

梱包資材用帯鋼、機械器具、硬質合金の製造および販売

事業の概況

- 梱包資材用帯鋼は、販売価格が低下。
- 機械器具は、価格競争が激化し、部品の販売も低迷。
- 硬質合金は、主力の射出成形機部品の堅調な需要。

連結財務諸表

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENT

連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科目 | 当期 2013年3月31日現在 | 前期 2012年3月31日現在 |
|---------------|--------------------|--------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 67,390 | 65,194 |
| 固定資産 | 55,671 | 55,795 |
| 有形固定資産 | 47,493 | 47,778 |
| 無形固定資産 | 491 | 533 |
| 投資その他の資産 | 7,687 | 7,483 |
| ① 資産合計 | 123,061 | 120,990 |

| 科目 | 当期 2013年3月31日現在 | 前期 2012年3月31日現在 |
|----------------|--------------------|--------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 33,468 | 33,605 |
| 固定負債 | 8,348 | 7,996 |
| ② 負債合計 | 41,816 | 41,602 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 80,013 | 78,892 |
| その他の包括利益累計額 | △ 201 | △ 834 |
| 少数株主持分 | 1,432 | 1,330 |
| ③ 純資産合計 | 81,244 | 79,388 |
| 負債純資産合計 | 123,061 | 120,990 |

連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科目 | 当期 2012年4月1日から 2013年3月31日まで | 前期 2011年4月1日から 2012年3月31日まで |
|----------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 109,112 | 113,942 |
| 売上原価 | 95,443 | 99,218 |
| 売上総利益 | 13,669 | 14,723 |
| 販売費および一般管理費 | 10,703 | 10,796 |
| 営業利益 | 2,966 | 3,926 |
| 営業外収益 | 755 | 731 |
| 営業外費用 | 422 | 462 |
| 経常利益 | 3,298 | 4,195 |
| 特別損失 | 401 | — |
| 税金等調整前当期純利益 | 2,896 | 4,195 |
| 法人税等 | 1,061 | 1,112 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 1,835 | 3,082 |
| 少数株主損失(△) | △ 92 | △ 73 |
| 当期純利益 | 1,927 | 3,156 |

POINT

【資産の部】①

総資産は、前期に比べ20億71百万円増加して、1,230億61百万円となりました。このうち流動資産は現預金が増加したこと等により、前期に比べ21億95百万円増加しました。固定資産は、有形固定資産が減少したこと等により、前期に比べ1億23百万円減少しました。

【負債の部】②

負債は、未払法人税等の増加等により、前期に比べ2億14百万円増加して418億16百万円となりました。

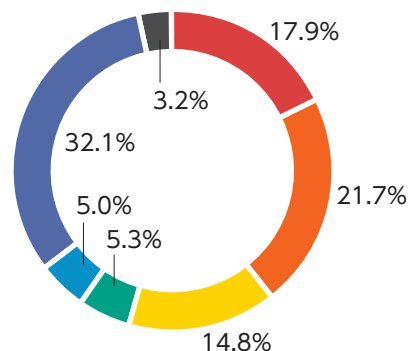
【純資産の部】③

純資産は、前期に比べ18億56百万円増加して812億44百万円となりました。これは利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

株主さまアンケート結果ご報告

第116期中間報告書において株主の皆さまにアンケートをお願いしましたところ、318名の方からご回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございます。一部ではございますが、アンケート結果を紹介させていただきます。

■ 当社株式の保有年数



■ 当社の株式を購入された理由はなんですか? (複数回答可)



■ 第116期中間報告書で興味をもった記事はどれでしょうか? (複数回答可)



皆さまのご意見をご紹介します

- 今期収益見込を下方修正した中で、配当金を維持している点は十分評価できます。
- 厳しい状況が続いていますが、今後の売上UP、配当UPに期待しています。
- 世界的不況の時代に、よく頑張っていると思います。
- グローバルな視点に立った将来計画をお願いします。
- 「やっぱり無いと困る」という「ものづくり」を、これからも続けてください。
- 個人投資家向け説明会を積極的に開催してほしいです。
- 地味な印象があるので、企業PRをもっとすると良いのではないのでしょうか。
- アンケートを通じて、株主の意見を広く集めてほしいです。
- ぶりに関連した開発の研究と商品の拡大に期待しています。
- 光学用フィルム分野に期待しています。

会社概要／株式の状況

CORPORATE PROFILE & STOCK INFORMATION

(2013年3月31日現在)

会社の概況

商号 東洋鋼鋳株式会社
 本社 東京都千代田区四番町2番地12
 設立 1934年4月11日
 資本金 50億4,000万円
 従業員数 2,137名(連結)
 事業所 本社(東京都)、大阪支店、仙台営業所、名古屋営業所、
 広島営業所、福岡営業所、技術研究所(山口県下松市)、
 下松事業所(山口県下松市)

役員 (2013年6月25日現在)

| | | | |
|-----------|-------|--------|------|
| 代表取締役社長 | 田中厚夫 | 常務執行役員 | 大谷憲史 |
| 取締役専務執行役員 | 吉武潤一郎 | 執行役員 | 浪岡貞之 |
| 取締役常務執行役員 | 宮地正文 | 執行役員 | 田辺敏幸 |
| 取締役常務執行役員 | 坂本信夫 | 執行役員 | 中野和則 |
| 取締役執行役員 | 隅田博彦 | 執行役員 | 藤井孝司 |
| 取締役 | 中井隆夫 | 執行役員 | 森賀俊典 |
| 常勤監査役 | 根岸保弘 | | |
| 監査役 | 宮本光晴 | | |
| 監査役 | 大川邦夫 | | |

東洋鋼鋳グループ

国内

鋼鋳商事株式会社
 鋼鋳工業株式会社
 KYテクノロジー株式会社
 東洋パックス株式会社
 共同海運株式会社
 下松運輸株式会社
 東洋パートナー株式会社

海外

TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD. (マレーシア)
 上海東洋鋼鋳商貿有限公司(中国)
 湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)
 江蘇東洋鋼鋳新材料科技有限公司(中国)

株式の状況

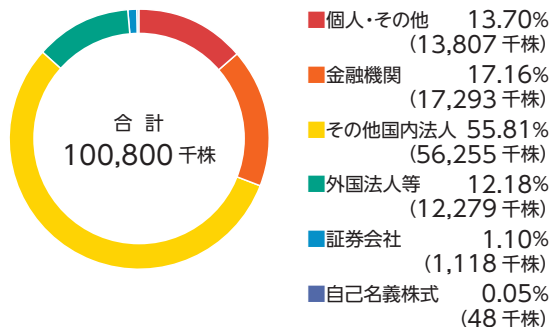
発行可能株式総数 403,200,000株
 発行済株式の総数 100,800,000株
 株主数 3,789名

大株主(上位10名)

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---|---------|---------|
| 東洋製罐株式会社 | 47,885 | 47.53 |
| 株式会社三井住友銀行 | 2,980 | 2.96 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 2,135 | 2.12 |
| CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO | 2,110 | 2.09 |
| 公益財団法人 東洋食品研究所 | 2,055 | 2.04 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,998 | 1.98 |
| Japan-Up・ベータ投資事業有限責任組合 | 1,873 | 1.86 |
| 株式会社淀川製鋼所 | 1,429 | 1.42 |
| 株式会社山口銀行 | 1,316 | 1.31 |
| 新日鐵住金株式会社 | 1,200 | 1.19 |

(注)持株比率は自己株式を除いて計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

| | |
|--------------------------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 |
| 株主名簿管理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 |
| (郵便物送付先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 |
| (電話照会先) | ☎ 0120-782-031 |
| (インターネット) (ホームページURL) | http://www.smtb.jp/personal/ agency/index.html |
| 公告方法 | 電子公告 公告掲載URL http://www.toyokohan.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 |

お問合せ

| | |
|--------------------|---|
| 証券口座で株式を保有している株主さま | 住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。 |
| 特別口座で株式を保有している株主さま | 住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行株式会社)にお問合せください。 |

東洋鋼鋳株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
電話 (03) 5211-6211 (代表)
ホームページURL tkworks.jp



本冊子は環境保全のため
植物油インキで印刷しています。



ホームページのご案内

コーポレートサイト



当社のホームページでは、投資家の皆さま向けのIR情報をはじめ、最新のニュースをお知らせする「What's New」、当社の製品を紹介する「身近な東洋鋼鋳」など、さまざまな情報を掲載しております。

tkworks.jp

IRサイト



IRサイトでは適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種IR関連資料やIRトピックス、株価情報など最新の情報を提供しております。

[http://www.toyokohan.co.jp/
ja/ir/index.html](http://www.toyokohan.co.jp/ja/ir/index.html)